

第28回日本霊長類学会大会公開シンポジウム

# 人間性の由来を探る

～霊長類学から総合人間学へ～

会場：椋山女学園大学 星が丘キャンパス  
文化情報学部メディア棟G階001大講義室

後援：愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、  
椋山女学園大学人間学研究センター

2012年

7/8

(SUN)

13:30～18:00  
(13:00開場)

## スケジュール

13:35～14:15 「身体化の人類学のためにー自然主義とのねじれた関係ー」  
菅原和孝 (京都大学大学院・人間・環境学研究科・教授、日本文化人類学会)

14:15～14:55 「身ごもりに始まる児やらひ」  
刀根卓代 (日本民俗学会)

15:05～15:45 「鏡と窓ーサルとロボットから人間を考えるー」  
佐倉統 (東京大学大学院・情報学環・教授、日本霊長類学会)

15:45～16:25 「人間性の神経基盤を探るー脳イメージング研究からー」  
菊池吉晃 (首都大学東京大学院・人間健康科学研究科・教授、日本生理人類学会)

16:35～17:15 「社会的存在としての人間の由来ー共感と暴力の過去と現在ー」  
山極壽一 (京都大学大学院・理学研究科・教授、日本人類学会)

17:15～17:55 「総合人間学への展望」  
渡邊毅 (椋山女学園大学・人間関係学部・教授、  
椋山女学園人間学研究センター)

参加費無料  
事前参加登録不要

## 開催趣旨

日本の霊長類学は、第二次大戦後すぐに世界に先駆けて人間社会の由来を探求する学問、すなわち、「人間とは何か」、「人間社会の由来はどのようなものなのか」といった課題を、人間と人間以外の霊長類の諸特徴を比較することで探求する学問として出発し、これまで多くの分野で世界をリードする成果を上げてきました。そして本学会は、こうした成果を公開シンポジウムや公開講演会を通して、広く社会に還元する活動を継続して行ってきました。今回の大会が「人間になるう」という教育目標を掲げる椋山女学園大学で開催される点を活かし、「人間性の由来」を霊長類学やその周辺領域の研究成果から今一度見つめ直し、現時点でどれほど迫れるのかという問題意識のもとに本シンポジウムを企画いたしました。

本シンポジウムでは、人類学に関連する五つの学会と開催校である椋山女学園大学人間学研究センターから代表を出していただき、上記の問題意識に基づいた講演をしていただきます。このシンポジウムを通して、人間性の起源や現代社会における様々な課題と人間が根源的に持つ特徴との関連を広く皆さまに知っていただけたらと考えております。

## 講演者プロフィール

### 菅原和孝

(すがわらかずよし, 京都大学大学院・人間・環境学研究所・教授, 日本文化人類学会)

京都大学大学院理学研究科博士課程修了。ニホンザルとヒヒ類の研究から出発し、1982年よりボツワナの狩猟採集民グイ・ブッシュマンの社会で身体性に注目したコミュニケーション研究を続ける。接触・対人距離・挨拶から始まり、日常会話・生活史の語り・動物認識などを究明。並行して、日本人の会話と身ぶりとの関わりを分析。2000年から静岡県水窪町で民俗芸能の伝承過程を調査。

主な著書に、『会話の人類学—ブッシュマンの生活世界Ⅱ』（京都大学学術出版会）、『感情の猿＝人』（弘文堂）、『ことばと身体—「言語の手前」の人類学』（講談社）など。

### 刀根卓代

(とねたくよ, 日本民俗学会)

筑波大学大学院地域研究研究科修了。出版社勤務後、長男の病氣療養に専念。夫の在外研究に伴い、香港、ワシントンDC、カリフォルニア州サンディエゴに暮す。日本民俗学会、日本文化人類学会、女性民俗学研究会会員。

主な論文に、「産育習俗における食物禁忌」、「現代社会における「民俗の時間」」、「『分類児童語彙』再読—子どもの社会化と母と子の空間認識」など。著書に『食物アナフィラキシー—アレルギーが生命を奪う』（共著）など。

### 佐倉統

(さくらおさむ, 東京大学大学院・情報学環・教授, 日本霊長類学会)

京都大学大学院理学研究科博士課程修了。三菱化成生命科学研究所、横浜国立大学経営学部、フライブルク大学情報社会研究所を経て、現職。専攻は進化生物学だが、最近は科学技術と社会の関係についての研究考察がおもな領域。長い長い人類進化の観点から人間の科学技術を定位するのが根本の興味である。

主な著書に、『進化論という考えかた』（講談社現代新書）、『わたしたちはどこから来てどこに行くのか？』（中公文庫）、『現代思想としての環境問題』『科学の横道』（ともに中公新書）、『進化論の挑戦』（角川書店）など。

### 菊池吉晃

(きくちよしあき, 首都大学東京大学院・人間健康科学研究科・教授, 日本生理人類学会)

東京大学大学院修士課程修了。東京医科歯科大学難治疾患研究所助手、同講師、東京都立保健科学大学（現首都大学東京）教授を経て、2005年から現職。2008年、米国科学財団（NSF）レビュワーに任命される。専門は、「愛」や「感動」など脳機能イメージングを用いた認知神経科学。

主な論文に、

Gender Differences of Brain Activity in the Conflicts Based on Implicit Self-Esteem. PLoS ONE 7(5): e37901.

doi:10.1371/journal.pone.0037901, 2012 など

### 山極壽一

(やまぎわじゅいち, 京都大学大学院・理学研究科・教授, 日本人類学会)

京都大学大学院理学研究科博士課程修了。京都大学理学部長、国際霊長類学会会長。アフリカ各地でゴリラの行動や生態をもとに初期人類の生活を復元し、人類に特有な社会特徴の由来を探っている。

主な著書に、『家族進化論』（東京大学出版会）、『父という余分なもの』（新書館）、『ゴリラ』（東京大学出版会）、『暴力はどこからきたか』（NHKブックス）、『人類進化論』（裳華房）など。

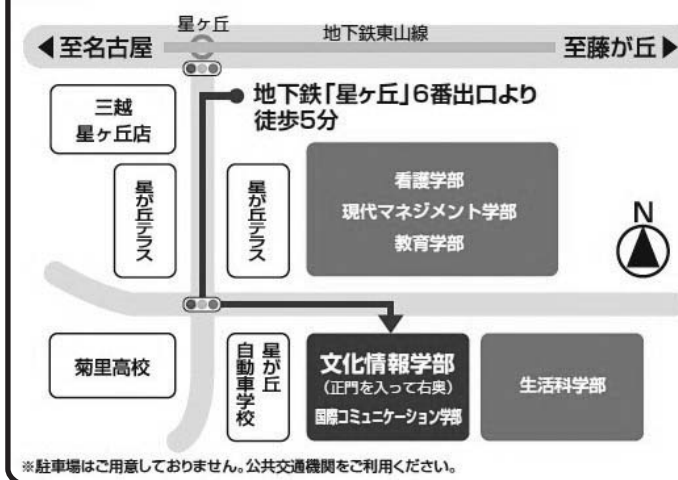
### 渡邊毅

(わたなべつよし, 椋山女学園大学・人間関係学部・教授, 椋山女学園人間学研究センター)

京都大学大学院理学研究科博士課程修了。京都大学霊長類研究所助手を経て、1987年から現職。霊長類の形態学的研究に従事し、各地の野猿公園でのニホンザル捕獲調査の他、南米、インドネシア、モーリシャスでフィールドワークを行っている。

主な著作に、『サル文化史』（共著）、『ルーシー』『オランウータンと人類の進化』『現生人類の進化』（いずれも訳書）など。

## 案内図



## 交通のご案内

JR・名鉄名古屋駅より名古屋市営地下鉄東山線で約20分、星ヶ丘駅下車。徒歩約5分。